

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 45

2016.10.25発行

編集責任：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第45回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『文化施設を活かした「地域活性化」』

～長浜市都市構想成功事例を中心に～

平成28年10月2日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『文化施設を活かした「地域活性化」～長浜市都市構想成功事例を中心に～』で開催しました。鳥羽 都子 氏(前財団法人かすがい市民文化財団チーフマネージャー)に講演をしていただきました。

春日井市には、市庁舎と並んでモダンで立派な建物「文化フォーラム」があります。市民会館もあります。書道博物館「道風記念館」もあります。充実した文化施設を擁している30万都市です。「地域活性化」の観点から視たとき、これらの施設が活かされて周辺地域が活性化しているかと問われると、YESとはいいいがたいものがあります。文化と経済が結びつかないのです。文化を活かした経済効果などについて、長浜市博物館都市構想と博物館で長浜の「まちづくり」実践をされた経験を中心にお話をして頂きました。

参加者は21名でした。商店街関係、中部大学民俗博物館からも参加して頂きました。講演後、参加者からの質問・意見が多く出され熱気あるフォーラムとなりました。



－発表要旨－

「公共文化施設を活かした地域活性化」と題して鳥羽都子氏より講演をいただいた。前半はその成功事例として「長浜市博物館構想と博物館」、後半は「春日井市における文化フォーラム春日井の活動事例から」の活動報告と提言を發表された。鳥羽都子氏はこの3月まで春日井市で勤務され、4月から岐阜県の勤務(環境生活部文化振興課文化企画係主査、学芸員)となり、来年度の「清流の国ぎふ芸術祭」の準備をされている。春日井市の文化行政に名残惜しさをにじませてのお話であった。

A. 文化施設を活かした地域活性化の成功事例としての長浜市博物館構想と博物館

主題をこう語られた。近年、地域経営は、地域の固有性を活かし市民の創造的活動を基本におくことが求められている。行政・施設・市民が連携し、文化施設が地域の政策課題に貢献する必要性とは？そして、文化施設が、地域政策推進の核として、地方自治、市民、NPO、企業など地域構成主体との連携により、相乗的な効果を生み出すことができるあり方とは？

「町づくりの在り方の模索」と「文化施設のあり方の模索」は、有機的・効果的な地域経営のための関係を築くとの主張だ。

I. 地域と文化施設の現状と課題

行政・文化施設・地域・市民の各実情にはそれぞれの課題がある。また、それらは、それぞれが独立したものではなく重なり関連しあう。①「行政」では、自立的地域経営ができているか。縦割りの非効率な行政運営でなく、実情に即した政策形成能力があるか。



財政悪化による予算削減を乗り越える行財政改革に取り組んでいるか。②「文化施設」では、ハード先行ではなく、活用システムは伴っているか。政策部門との連携が弱くないか。ただの見学から、市民の主体的・能動的な「交流」の場への志向に向かっているか。連携のための組織、スタッフのスキル開発の体制整備がされているか。

写真：【北国街道沿いの黒壁スクエア、旧銀行を改装】

③「地域・市民」は、地域社会の衰退とコミュニティ意識の低下の内容はどの程度か。地域アイデンティティの確立、地域文化の再評価につながる創造的環境づくりに挑んでいるか。地域活動への意欲、市民自治力によって帰属意識は高まっているか。以上の現状点検をしたうえで、必要なことは①行政には地域課題を解決するための効果的手法が求められる。②文化施設には従来の社会教育、持ち込み企画開催を脱することが求められる。③市民には地域参画を促進する仕組みづくりが求められる。

以上を踏まえて、地域のリーディング機関となるのは何か。行政内での政策形成は地域密着型になりにくいとし、文化施設の公共性、継続性、創造活動、専門性といった特性が、地

域政策の展開に寄与するとして、その潜在的優位性とその理由を 4 点上げる。①地域の文化資源を集積している。②施設・空間・設備を有し、交流活動に適する。③市民や専門家等とのコーディネート力をもつ。④地域を知る専門の人材=学芸員が存在する。(理由は略)

これらを活かした成功例として長浜市長浜城歴史博物館の事例を取り上げられた。

II. 1984 年の『博物館都市構想』の策定と市民エネルギーが(株)黒壁の設立につながった(株)黒壁が設立されたのは 1988 年。景観形成と新産業創出による中心市街地活性化を行った。長浜市は、歴史を生かした町並み整備やイベントの開催などによって再生を果たした。黒壁は、歴史性を生かしたハード整備と、ガラスに着目し、文化産業による地域求心力の形成を行って中心市街地の観光形成や商店街再生に成功し、長浜といえば黒壁にスポットライトがあたる。

しかしながら、黒壁を中心とした中心市街地や観光開発は、一定の成果を収めたものの、(株)黒壁が3年間赤字を計上する原因となった拡大路線や、買回り品を扱う他商店との乖離、後ろ手に回った後継者育成、観光エリアになった中心市街地と地域生活との乖離もあり、これらの課題に応える施策のひとつとして博物館の活動が位置づけられる。「博物館都市構想」は、市役所のプロジェクトチームで現地調査や市民との意見交換を行って市民会議を設立したボトムアップ型の構想であった。都市整備とともに、市民意識も重視し、地域の文化や自然を再確認し、発展させることを目指した。地域全体を博物館に見立て、学芸員のように市民がまちを深く理解し、“市民総学芸員”を掲げ、日常の中で絶えず長浜らしい情報発信をしていくために、すべての市民が自らの町の特性を知り、それを誇りにすることで、かけがえのない地域資源としていく。ここに最大の特徴がある。この基盤の上に、1994 年「新博物館都市構想」に引き継がれた。新構想は、裾野広い「協同型まちづくり」を展開する。黒壁だけでなく、多様な主体が参加できる多様な拠点と参加できてない部分をカバーするネットワークを組む課題を掲げた。

まだまだ、多くを語られたが、博物館自身が能動的な働きを行ってこなかったことが、地域乖離・遊離の問題として気づき、むしろ「地域づくりの推進役」としてと、従来の博物館機能に“地域貢献”を位置づけた具体的な取り組みの事例を熱く語られたことに触れさせていただき、他は割愛させていただく。

III. 春日井市における文化フォーラム春日井の活動事例から



写真：文化フォーラム春日井

鳥羽都子氏は 11 年間春日井市でアートマネージャーをされてきた。「公共文化施設を活かした地域活性化」をテーマに、文化施設を核とした「地域に創造的環境を生み出す」「地域に創造的環境が生まれる」創造的実践を熱く語られた。創造的マネジメントの仕事である。

(1)創造的マネジメントは「創り手×享受者×場」で生まれる創造的環境を、文化資源(創造者、市民、施設)に、どんな課題があるか、どう解決するか。また、いかにコーディネートし、供給側と求める人々を結びつけるかをマネジメントする。(2)文化施設を核とする循環の現象の理想型は、「創造性→喜び、刺激、発見→活動・発表する場→そこにしかない価値で活性化」の循環をつくる。(3)アートセンターが地域の創造的環境を刺激した10年間のマネジメントが、農山村でもない、歴史的都市とも異なる大都市周辺都市である春日井市の「文化フォーラム春日井」はコンサートホールや展示スペースのある「アートセンター」である。(4)アートとまちづくりの関係性を見出す。「都市の課題」と「アートセンターの課題」をネットワークをつくり、コーディネートするのはアートマネジャーという専門家である。地域固有の文化的資源を集積し、身近な交流・創造活動ができる「場」を設け、ネットワークをつくり、コーディネートすることが欠かせないと強調された。(5)「文化フォーラム春日井」の1階のスペースに、フレキシブルな展示装置をつくり、谷川俊太郎氏も興味深々だった今日のクリエイティブシーンに立ち会える装置と仕組みをつくった事例などをスライドで紹介された。参加型のプロジェクトとして、子どもも遊べる場もあり、スタンプラリーで回遊するイベントを「町の創造拠点」として紹介された。(6)最後の事例として、**学校連携「美形優秀」**の取り組みを紹介された。芸大が近隣に3つもあるのに、街にアートの雰囲気がないと挑戦したもの。県内の芸大を結び付け、新たな才能を見つける選抜展である。また、文化経済学からみる創造的マネジメントは社会全体に好ましい影響をあげ、**新たな価値を生み出す**。様々な分野と繋がり創造的なマネジメントであると結論する。(記録：塚田 忠雄)

OPINION

『ふるさと春日井「まちづくり」の風景』

— 「文化施設」を活かした「地域活性化」を考える —

下記に示した〈参考資料〉の数字は、市役所を中心にした圏内の、所謂現在の鳥居松地域の人的環境を示したものです。経済的には、マーケティングの対象になる数字です。「地域活性化」は、こうした人的資源が経済効果に如何に結びついて行くか、行かせるかという問題です。文化施設(文化フォーラム、市民会館、道風記念館)が「まちづくり」の拠点となるような人と人との交流それに伴って経済効果を創り出す環境作りが重要となってきます。それが「活性化」への道筋とならなければなりません。シャッター商店街を再生して、文化施設にrepeatする人の流れを呼び込むためには、何をすればよいのか、どのような資源を活用すればよいのかを、当事者(地域の人々)が「ふるさと意識」を前提にして知恵を出し合えば必ず展望は開けてくると思います。やれない理由を考えるより、どうしたらやれるのかの理由を考えることだと思います。(『会報9』『会報13』で「書のまち」で「まちづくり」

構想の提言をしました。

今ある春日井の文化施設は市民の芸術文化の振興に一定の役割を果たしています。しかし、そうした立派な文化施設が、「まちづくり拠点」として、機能しているのかどうかという視点で見たとき、必ずしもそのような環境にはありません。多くの課題があるように思います。人の流れだけ見ても「書のまち春日井」関連だけでも年間約 10,000 人の流動人口が repeat しています。地域の人口を加えれば 15,000 人です。さらにその他の文化関連の repeat 人口は約 200,000 人です。マーケティング的には大きな商圏 market です。もっと synergy (相乗効果) を考えるべきです。今は、Target を「書のまち」に絞るべきです。春日井市の掲げる「書のまち春日井」のスローガンで経済効果を上げ「地域活性化」を図るために次のような提言をしておきます。①「書のまち」にふさわしい景観づくりをするべきです。②地域市民を巻き込んだ書のイベントを継続的に行うべきです。③「書のまち春日井」がイメージできる情報発信と、他地域との連帯協働の取り組みを官、民、産が共通の価値観で取り組むべきです。行政も商工会議所も商店組合も新しい発想で頑張っ欲しいと思います。

結局は地域のことは地域の住民で解決してゆかなければならないのである以上、危機感をもって取り組む以外に道はないのでは……。 「ふるさと意識なくして地域活性化なし」それには、「ふるさと意識」の醸成活動が益々必要であることを感じます。(文責：河地 清)

〈参考資料〉 鳥居松地区人口 (平成 25 年現在) と文化施設入場者数 (平成 27 年度)

区 名		15 歳未満	15 歳～64 歳	65 歳以上 総数	合 計
月見町区		162	762	313	1237
	1丁目	18	195	122	335
八事区	2丁目	114	472	173	759
	3丁目	41	285	103	429
	篠木1	37	221	99	357
町割区	鳥居松6	45	258	90	393
	鳥居松7	58	250	126	434
上ノ町区	鳥居松8	80	404	135	619
	中央通2	97	568	145	810
総 数		466	1986	698	5373

- ・フォーラム入場者 **138,547 人**
- ・市民会館入場者 **69,914 人**
- ・道風展 6707 点出展 (内学生 6380 点) **6135 人**
- ・市民展 845 点出展 (内書 341 点) **3312 人**

注)「春日井市公式ホームページ資料」から加工作成

次回

第 47 回

「ふるさと春日井学」研究フォーラムの ご案内

「ふるさと春日井」の魅力を再発見する F O R U M

「ふるさと意識なくして地域の活性化なし」

「地域活性化・まちづくりの応援メッセージ」

Forum for Furusato Kasugai Studies

Forum テーマ：

『ふるさと春日井「サボテン」で「地域活性化」』

日 時：平成 28 年 12 月 4 日（日） 午後 1 時 3 0 分～3 時 3 0 分

場 所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）八幡小学校西側

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町 3 番地）

講 師：伊藤安季子 氏（伊藤サボテン園）

フォーラム内容：春日井市の特産品として、サボテンの実生栽培は全国シェア80パーセント

とされています。「サボテン」のまち春日井として、全国に発信しています。商工会議所を中心にしてブランド化の推進、シェア拡大のためのマーケティング、商品開発と頑張っておられます。しかし、草創期の歴史については市民の間にどれほど認識が定着しているだろうか？現状と今

後の展望をお話し頂きます。 後は FORUM で

(非会員の方のみ資料代 500 円徴収させていただきます。)

※事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学検索

